

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 どぐし

Winter 2026

Vol.52

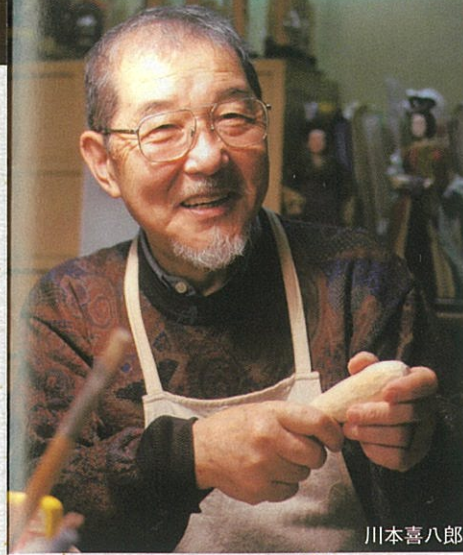
特集

人形美術家 川本喜八郎
生誕100年記念事業を振り返る

特集

人形美術家 川本喜八郎 生誕100年記念事業を 振り返る

人形美術家・川本喜八郎の生誕100年を迎えた2025年、飯田市川本喜八郎人形美術館では1年を通して様々な企画を実施しました。春と秋の特別展をはじめ、人形アニメーションの特別上映、コマ撮り体験、川本が収集した古布を使っのしおりやブローチづくり。多くのみなさまに楽しみながら知っていただく機会となりました。



川本喜八郎

川本喜八郎は、生涯をかけて人形を作り続けた日本を代表する人形美術家であり、人形アニメーション作家です。テレビ、映画、舞台と異なる領域に渡り、その中心には常に「人形」がありました。国内ではテレビ人形劇『三国志』『平家物語』で知っている方が多いと思います。国際的には人形アニメーションが高く評価され、短編の『花折り』（1968年）、『道成寺』（1976年）、『火宅』（1979年）など国際映画祭で数多く受賞されています。

川本には人形アニメーションの師匠が二人います。持永只仁とイジイトルンカ。この二人は日本とチエコでそれぞれ人形アニメーションの礎を築きました。そして持永からは人形アニメーションの技術を、トルンカからは「人形とは何か」について学び、その後の作品づくりの基礎となっています。

人形劇『三国志』『平家物語』の人形は、実は放送が決まる前から作られていました。川本は、この物語は「人形の世界にふさわしい」という強い信念のもと、人形づくりを始めていたのです。そしてNHKの放送が開始された



人形アニメーションの特別展に合わせて、ゴールデンウィークにコマ撮り体験を実施。来館者は30分くらいで10秒程度の作品を作っていました(5月5日)



秋の特別展「項羽と劉邦展」
写真は漢の初代皇帝、劉邦
(9月13日～11月30日)



春の特別展の後半はイジイトルンカ作品展。
シニクスピアの『真夏の夜の夢』の人形を展示
(6月8日～8月31日)



生誕100年記念事業の締めくくりとしてスタッフが餅をつき、ご来館の皆さんに振る舞いました(12月28日)



パネル展「川本喜八郎の軌跡」から、1989年プラハでの「いばら姫またはねむり姫」撮影風景
(1月20日～12月20日)



春の特別展「川本喜八郎が影響を受けた人形アニメーション作家—持永只仁とイジイトルンカ—」
(4月26日～6月7日/6月8日～8月31日)

1982年に川本はすでに57歳。55歳定年が常識だった当時のことを考えると、そのエネルギー溢れる行動力は私たちに勇気を与えてくれます。まだまだお話ししたいエピソードはたくさんありますが、当館スタッフによる人形の解説にその要素が散りばめられています。今後、「人形劇のまち飯田」のなかで、多くの方々へ人形の魅力と人形劇の面白さをお伝えしたいと思っています。

また、2027年3月に当館は開館20周年を迎えます。現在、新たな可能性を探る企画を準備していますので、どうぞご期待ください。

『四十三年ぶりの羽場公民館』—人形劇団とんかち 市川達也



いいだ人形劇フェスタ2025
羽場公民館にて「にゃんたくん」を上演

昨年はいいだ人形劇フェスタでは羽場公民館にて人形劇団とんかち一人芝居を上演しました。
個人的には羽場公民館での上演は四十三年ぶりの二度目でした。一度目は大学の人形劇サークルの時で、当時四年生で就職が決まっていた僕は「飯田の人形劇カーニバル」に来るのもこれが最後」と思っていました。
ところが卒業が近くなった頃、サークルの後輩で同じ愛知県西三河に住むF君が、地

第41回 すべての道は 飯田へ通ず

僕が人形劇を続ける事ができたのはF君のお蔭です。でもその感謝の気持ちを伝えることができなかったのが心残りです。
昨年の羽場公民館、飯田西中学校人形劇部の皆さんとの共演でもとて和やかな公演になりました。僕は四十三年前にここでF君といっしょに上演した時の事を思い出しながら。
次号は愛知人形劇センター理事長・人形劇団わたくども人形劇団ひつまぶしに所属の高橋元さんです

元でアマチュア人形劇団を創立して僕を誘ってくれました。そして僕は現在までアマチュアで人形劇を続け、いいだ人形劇フェスタにも三十五回ほど上演参加しています。
一方のF君はプロ劇団に入り、誰もが認める素晴らしい人形劇役者になりました。しかし昨年六月に病で帰らぬ人となりました。
僕が人形劇を続ける事ができたのはF君のお蔭です。でもその感謝の気持ちを伝えることができなかったのが心残りです。
昨年の羽場公民館、飯田西中学校人形劇部の皆さんとの共演でもとて和やかな公演になりました。僕は四十三年前にここでF君といっしょに上演した時の事を思い出しながら。



43年前に羽場公民館で上演後、サークルでの集合写真。前列左から2人目が私、右端でギターを持っているのがF君です



年一回の展示替えによりさまざまな作品を鑑賞できる。写真は『泣いた赤鬼』



毎年1月上旬に同人形館を会場に「初春を寿ぐ竹田人形館」を開催。今年は1月10日(土)に伊那市の「古典糸あやつり人形芝居 ヒトカタ座」が上演

日本の伝統的な 糸操りを見て、体験 竹田人形館

飯田市座光寺「麻績の里舞台桜」で知られる旧座光寺小学校舞台校舎の奥に佇む瀟洒(しょうしゃ)な建物が竹田扇之助記念国際糸操り人形館(通称竹田人形館)です。

昭和30年代から50年代前半、テレビや映画等で活躍した竹田人形座の人形と竹田人形座の代表であった竹田扇之助が国内外で収集した人形コレクションを展示。代表作『雪ん子』をはじめ、喜之助人形の名品を間近に見ることができます。

Library Cafe 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から⑤

シリーズ あしたへ伝えたいこと 文化をつくる

この中に「人形劇の可能性を考える七つのアプローチ」と題した人形劇への提言がある。「人形劇21世紀会議in西宮2009」での講演要約だが、片岡輝は詩人で当時は東京家政大学学長。21世紀を迎え日本人形劇ネットワークが、人形劇からの発信と、人形劇に刺激と活性化をとした活動の「人形劇の閉塞的状況を打ち破り…メディアのジャンルを越えて行くことを」で結ばれたこの講演は、当時人形劇の中で少なからぬ反応をもたらせて、飯田での川本館と人形劇センターの設立にも関与している。いま、こうした提言を聞き直すことで人形劇の次の展開に動きをもたらせるのではないだろうか。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



片岡輝著/
子どもの文化研究所 発行
(2025年3月刊)

人形劇いろいろ体験会 3月22日(日)



ワークショップの部
つくってあそべる動物マリオネット
受付時間:10時~12時
定員:10組(3月20日までに予約必要)
材料費:1個500円 所要時間:約50分

今大人形の部 見て・体験できる人形浄瑠璃

時間:13時~
内容:三番目上演、操作体験
観劇・参加自由、無料
※いずれも入館料が必要です



竹田扇之助記念国際糸操り人形館

開館時間:9時~17時(入館は16時30分まで)
休館日:月曜、祝日の翌日、年末年始
入館料:大人400円、小中高生200円
※小中高生はいいだ人形劇フェスタ2025の参加証ワッペン提示で入館無料
問合せ:☎0265-23-4222

活動報告



「りんごアートプロジェクト展」一般社団法人ソーシャルデザインプロジェクト丘のりんごとの協働事業

今年度は児童養護施設慈恵園、一般社団法人ソーシャルデザインプロジェクト丘のりんごとの協働事業として活用できました。9月より、信州アートカウンシル×長野



NPO法人Hugを利用する若者たちから「日本の和を知りたい」とリクエストがあり、浴衣の着付け体験を実施

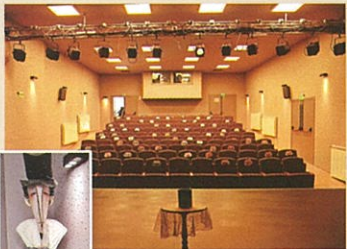


「人形づくりワークショップ」児童養護施設慈恵園にて

人形たちとつくるコミュニケーションスポット

ほろろり

人形をつくることで表現の幅もひろがり、人形劇だけではなく、コミュニケーションのツールとしても活用できました。9月より、信州アートカウンシル×長野県みらい基金が主催する「子どもアート寄付応援プロジェクト」の団体として加わり、定期公演や飯田下伊那の企業個人の皆様にご寄付をいただきました。子どもには文化芸術を体験する権利があります。1人でも多くの子どもたちが体験できるように活用していきます。ご支援いただき、改めましてお礼申し上げます。また、11月29日(土)から始まった「りんごアートプロジェクト展」ではムトス飯田助成事業の支援を受けて、3年目の集大成として「りんごの実」を製作しました。今回は地域のみなさんからも作品を募集し、作品展に華を添えていただきました。飯田市役所の市民サロンを利用する方々からもメッセージノートに多くの励みや感想が寄せられました。



客席の様子。人形の写真は等身大ぐらいにでかい切り出しが客席最後尾に立てかけてあり、なかなかユーモラス!

134で車椅子用スペースは6席分。建物には障がいのある方も利用可能。入場料4〜7ユーロ(芝居の長さによる)、子供と大人は同額だが、複数のお子さまにはファミリー割引がある。劇場にはアトリエスタジオもあり、人形や装置製作のための木工や金属加工対応のための道具、設備もある。常勤スタッフは10人。(ディレクター、アーチスト、技術者、舞台監督など)。ロケーションは市民の憩いの場所となっている広い「ザイモフ公園」の前に位置している。「ヤンコ人形劇場」は、「ソフィア人形劇場」(創立1971年、客席250)とともに、持ち主はソフィア市。市の助成を得て「ソフィア人形劇場」が管理・運営。二つの劇場の特質を生かしながら企画に沿って年間プログラムを展開する。私は行くたびに若い人もベテランも深刺と舞台に立つ、気概のようなものを感じる。運営には苦勞も伴うが、喜びも大きいに違いない。

ダコタのIIDA日記

Journal de Dakota



フランスのクリスマスやお正月

こんにちは皆さん!

ヨーロッパではクリスマスは家族と一緒に過ごす大事な時間です。昨年12月、家族に会うためにフランスへ帰りましたのでフランスと日本のクリスマスやお正月の違うところについて書きます!

まず、フランスではクリスマスは家族と集まって食事をして、プレゼントを交換する機会です。ふだんでは食べない贅沢な料理、例えばフォアグラ、スモークサーモン、カキなどを食べます。そして、クリスマスには特別なデザート『ブッシュ・ド・ノエル』があります。薪のような形をしているケーキです。この伝統的なケ

ダコタ・ミドウ 2022年5月に仏シャルヴィル・メジュールから飯田へ。飯田文化会館で通訳や翻訳、海外とのやりとりを担当。飯田での生活の中で見たこと、感じたこと、人との出会いなどを綴ります。

キの名前は、冬至の終わりを祝うために大きな木の切り株を燃やすことからきたといわれています。フランスのお正月は友達が集まります。お出かけするか、友達の家でアミューズブーシュを食べながらお酒を飲み、真夜中に近づく皆でカウントダウンをします。新しい年になったら挨拶のキスをして、「あけましておめでとう」や一年の健康と成功をお祈りします。日本では年賀状の伝統がまだ続いています。フランスではどんどんなくなって、個人ではSNSがメールでデジタルカードを送るようになりました。



日本でも行われるようになったクリスマスマーケットは、ドイツとフランスのアルザス地域で生まれた伝統です。写真はシャルヴィル・メジュール市のデュカル広場で開かれたクリスマスマーケット



クリスマスの特別なデザート「ブッシュ・ド・ノエル」

日本ウニマ通信

世界みてある記 18

人形劇団ブレイク国際部 小柳田美子

ヤンコ・サカゾフ大通り人形劇場

今回はブルガリア、ソフィア市の「ヤンコ・サカゾフ大通り人形劇場」(以下、ヤンコ人形劇場と略す)についてご紹介。ソフィアは首都であり、政治、経済、文化、教育の中心地。1998年に地下鉄が始まったが、今でも街なかには縦横にトラムが走り、市民の大切な足となっている。窓越しに「ピトシャ山」を眺めるのが二つの楽しみ。

「ヤンコ人形劇場」は創立1959年。舞台は間口4m、奥行3.8m、高さ3.2m。客席は



ヤンコ・サカゾフ大通り人形劇場の外観 https://www.sofiapuppet.com/en/base_41_52

日本列島 人形劇祭の旅



ポッケちゃん

ひらかた人形劇フェスティバル

ひらかた人形劇フェスティバルの始まりは、何人の枚方人形劇連絡会のメンバーが飯田の人形劇フェスタに参加しているうちに、その盛り上がりで触発され、枚方でも人形劇フェスティバルをやろう!!となり、平成元年に立ち上げました。
観る。演じる。企てる。の三本柱をコンセプトに、連絡会員が一致団結！
また、フェスのキャラクター「ポッケちゃん」(ポッケトから取り出した人形を手にする)とその人形に変身するもフェスの顔として



キッズ劇団の上演

登場。毎年テーマの人形に変身するもフェスのおまわり。役所も巻き込み、ひらかたの人形劇のおまつりとして位置づけ、毎年3月に市立牧野生涯学習市民センターで開催しています。



展示コーナー



エンディング「金の斧銀の斧」

2026年3月7日(土)の37thフェスでは、プロアマ劇団(他市劇団)枚方の劇団)の上演、初級人形劇講座(市主催)で年1回、プロの劇団の講師を迎え、市民を募集)の発表、キッズ劇団(連絡会員が講師になり、子どもたちを募集の発表のほか、パフォーマー・図書館職員の見聞かせ)やってみるコーナー!作ってみるコーナー!売ってるコーナー!売店等あり、今回のテーマ「北風と太陽」を取り入れた企画を随所に展開、一日中楽しめます。
情報紙「くらわんかニュース」を年1回、全国発信し参加を募っております。
「ひらかた人形劇フェスティバル」で検索して頂くと、詳しい情報をご覧になれます。是非一度ご参加ください。
ひらかた人形劇フェスティバル実行委員会会長
在川 多津子

DATA

ひらかた人形劇フェスティバル

主 催:ひらかた人形劇フェスティバル実行委員会

場 所:大阪府枚方市立牧野生涯学習市民センター

問合せ:ひらかた人形劇フェスティバル実行委員会事務局 ☎050-7102-3137

掲示板 いいだ人形劇センターからのお知らせ

おいでよ♪いいだ人形劇まつり「りんごっこ劇場」

飯田下伊那の市民劇団が企画・運営する「りんごっこ劇場」は今年で22回目。出演は竜東中学校人形劇部きらら、ぱべっと、どらら、竹の子会、黒娘、あじゃ、ばあ、人形劇団なむなむ等8劇団が連続で上演します。お楽しみに。

- 日 時:2月15日(日)10時開演
- 場 所:飯田短期大学アカシアホール
- 料 金:300円 ※3歳未満無料
- 問合せ:TEL0265-23-3552飯田文化会館



並木 さんぽ

飯田市の子どもたちは小学校で人形劇に取り組むものの中学へすすむにつれ、その人数は格段に減少します。高校となればなおさらです。そうした中、飯田市内の女子高生2人がいいだ人形劇センター主催のユースクラブに参加し、作品づくりに励むこと1年半。1月下旬の成果発表が迫ってきました。健闘を祈ります!

次号は2026年4月発行予定です。(帆)